

ルリシジミはその和名どおり、とても清楚で美しいブルー翅表をたのしませてくれるシジミチョウです。1982年の七草山産標本は飼いネコも含めた家族で山歩きを楽しんだときの、当時10歳の娘：純子が採集した記録です。尾状突起も目玉模様もない、きわめてシンプルな衣装のチョウ



Apr.5,1982 兵庫七草山
ルリシジミ leg.Junko



50525 志方町

ウですが、少しも見飽きることのない美しいルリ色です。蛹で越冬するので近隣では早春に最も早く出てくるシジミチョウです。ヤマトシジミやツバメシジミと同レベルの普通種でいろいろな花の蜜を求

めて飛び交うのですが、前二者にくらべると地上低く飛ぶことが少なく、木々の梢近くを忙しく飛ぶことが多いチョウです。ときに、路面の湿地に集団を作ることもあり、その状態にちょっかいを入れるとみごとにブルーが輝くチョウ吹雪を楽しむことができます。志方町の山道で5-6頭の集団に出会い、ビデオカメラ片手にチョウ吹雪の記録をもくろんだことがあります。実際に目で追える美しさを映像としてキャッチすることは成功しませんでした。5-6頭では数が少なかったからだと自らにいいわけをしたのですが、北海道富良野で10数頭の集団を経験した際にも複数のブルーの輝きを撮りこむことは容易ではありませんでした。



June 13,2006 兵庫佐用町
ルリシジミ

路面湿地で集団吸水するのは♂ですが、ルリシジミの仲間は♀がそれなりに美しく、石垣島で出合って以降親しくお付き合いをさせていただいている立石市の蝶友のように、むしろ♀ばかりに関心を寄せ始める愛好家も少なくありません。左標本写真に示すようになかなか味わいのある色調が好まれる要因です。しかも春から夏、秋と季節ごとにこの色調が微妙に変化をしてゆきます。今年2009年は、こうしたごく普通種の自然美にも目をむけたいと思っています。



Apr.5,2008 加古川市志方町
ルリシジミ ♀

ルリシジミは路面での吸水や花での吸蜜時、どんな場面でも翅表を開くことがなく、美しい翅表が見られるのは静止状態から飛び立って移動する瞬間くらいのもので、複数の個体が集団で吸水している光景に出会えたなら、高い確率で美しい翅表の輝きを観察できます。2015年の5月に、集団形成場面ではなくただの1頭だけの吸水場面でしたが、ようやく飛び立つ瞬間を記録できたのでここに示しておきます。



May 21, 2015